

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～ 外周護岸の締切り完了／揚土工事の最終段階へ～

■ ト ピ ッ ク ス ■

国土交通省は、我が国航空ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路の供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

このうち、埋立部において、工事用船舶の出入り用として残していた護岸開口部（300m）の締切り作業を9月7日（火）に完了し、外周護岸全周の締切りが完了しました。

外周護岸^{（注1）}は、平成19年3月の工事着工以来、地盤改良工（平成20年3月完了）、築堤工^{（注2）}（平成20年7月完了）、平成20年3月からは基礎捨石^{（注3）}の投入を開始、同年9月14日（日）に開口部（300m）を除いた区間の護岸を概成させ、平成21年6月より開口部300mの施工を段階的に開始し、今回の締切り完了となりました。

今後は、捨石マウンドの均し作業、被覆石^{（注4）}の設置、上部ブロック^{（注5）}及び消波ブロックの据付作業等を行い、完成断面に向け急ピッチで作業を進めるとともに、護岸背後（開口部分の護岸を締切った背後の海面部）の管中混合固化処理土の施工を10月中旬完了に向け作業を進めます。また、管中混合固化処理土の施工完了後は、埋立部全域（軽量混合処理土施工箇所を除く）で揚土工事が本格化することとなり、いよいよ、揚土工事が最終段階へと進むこととなります。

（注1）護岸延長約4,500mのうち、約4,180mの区間を緩傾斜の捨石マウンドと上部ブロックからなる緩傾斜護岸構造、残り約320mの区間をケーソン式混成堤構造を採用している。

（注2）基礎捨石マウンドの基礎。地盤改良後の海底地盤上に岩ズリ（岩を破碎した材料で粒径0～300mm程度）を投入して築堤するもの。

（注3）防波堤や護岸などの基礎に投入される石（30～200kg/個）をいう。

（注4）防波堤や護岸の基礎捨石上に設置される石（500～1,000kg/個）をいう。

（注5）捨石マウンド天端に設置する越波対策用のコンクリートブロックをいう。

平成21年 10月 1日（木）
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室 こばやし はらだ きふね みつやま
小林・原田・貴船・満山

住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階

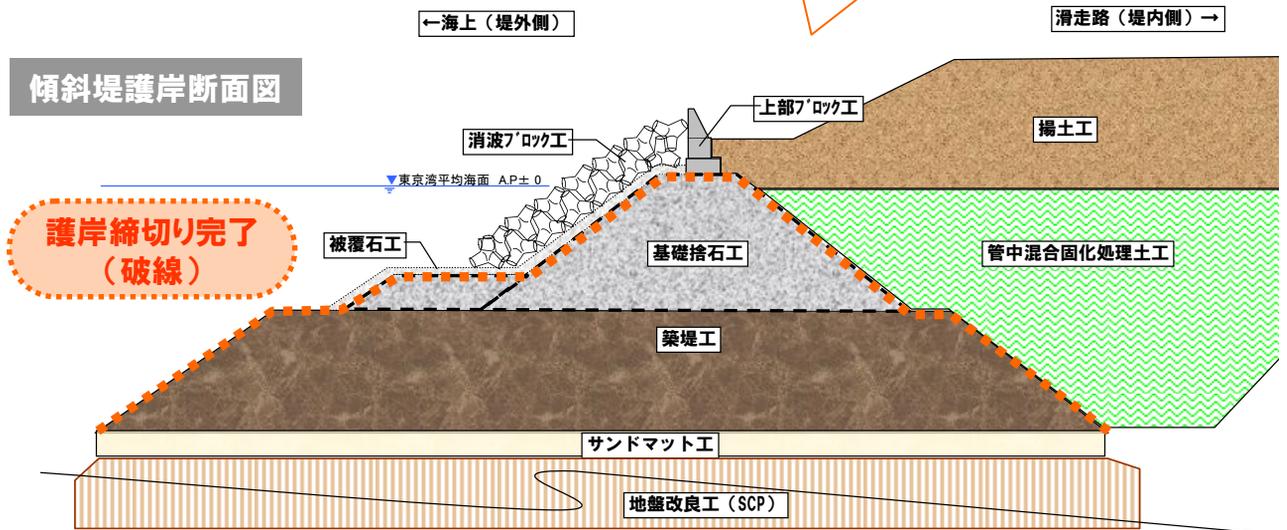
電話 03-5756-6577

HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

東京国際空港全体図



傾斜堤護岸断面図



開口部締切り”前”



開口部締切り”後”

